

ソーシャルデザイン教育と地域支援

Social Design education and Community contribution

ソーシャルデザイン学科

井上友子・青木幹太・佐藤 慈・星野浩司

Tomoko Inoue・Kanta AOKI・Shigeru SATO・Koshi Hoshino

1. 背景

【ロケーションおよび町の特性】

大刀洗町は雄大な筑後平野の北部地帯に位置し、福岡市の中心市街地天神から快速電車とローカル電車を乗り継いで1時間15分、高速を使用した自動車の移動で50分ほどの距離にある。町の南東部には久留米市との境界線である雄大な一級河川・筑後川が流れ、地形は見渡す限り平坦で、麦畑の向こうになだらかに広がる地平線に沈むオレンジ色の大きな夕日を眺めることができる。

「大刀洗」という町名は、南北朝時代の武将・菊池武光（きくちたけみつ）が大保原（おおほばる）の戦いで血に染まった太い刀を筑後川の支流で洗い清めたという伝説に由来する。しばしば、「大刀洗」と「太刀洗」の2種類の表記が混在し使用されているが、その理由は、1889年に町村制が発足した際、村の申請名である「太刀洗村」を「大刀洗村」と誤記し、官報に掲載してしまった「うっかりミス」が原因だといわれている。

町の観光資源は「カトリック教会今村天主堂」、国指定史跡「下高橋官衙遺跡」、「床島堰」、「大堰神社」、「西光寺の阿弥陀三尊像」、「蛭」などだが、なにより延々と広がる田畑は日々の喧噪とは別次元の存在であり、癒される環境である。

1955年には「大刀洗村」「本郷村」「大堰村」が対等合併し「大刀洗町」が発足し、現在の版図が形成されることになった。

2020年8月1日時点での総人口は15,376人、人口密度は673人/km²と頻繁に暫定的な数字が書き換えられている。

国勢調査による正式な記録では、平成27年

(2015年)の大刀洗町の世帯数は5,008件、人口は男性7,188人、女性7,950人、計15,138人であり、1km²あたりに占める人口密度は662人である。いささか乱暴な比較であるが、たとえば、2015年度の国勢調査等によると、新宿から1時間ほど離れた町田市の世帯数は186,711件、人口は男性212,312人、女性220,036人、計432,348人であり、1km²の人口密度は6,042人ほどであることから、大刀洗町一人当たりの専有面積がいかによつたりとしているのかイメージできる。

産業別就業人口の特化係数は農業が最も多く、ついでサービス業、製造業、運輸業と続き、雄大な土地を活用した第一次産業の優位性が顕著である。農産物では、ほうれん草・レタス・小葱などの根菜類やオクラ・枝豆などが多く収穫され、大手ビール会社キリンビール「一番搾り」用の大麦の栽培や、アニメ『スラムダンク』の主演の名「三

大刀洗町			
	2010年	2015年	
総世帯数	4,793	5,008	
男性	7,179	7,188	
女性	8,105	7,950	
総人口	15,284	15,138	
人口密度/km ²	669	662	
面積km ²			22.84

町田市			
	2010年	2015年	
総世帯数	119,613	186,711	
男性	209,580	212,312	
女性	217,407	220,036	
総人口	426,987	432,348	
人口密度/km ²	5,967	6,042	
面積km ²			71.55

表1. 2010~2015年度の大刀洗町と町田市の人口比較

井寿」に用いられた純米吟醸酒「三井の寿」用の米・山田錦などの栽培により、一部マニアの間では知らない者はいない。

	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年
農業(人)	1770	1597	1371	1253	1226	1083
サービス業(人)	1233	1415	1652	1927	2330	2256
製造業(人)	1127	1314	1369	1410	1176	1165
卸売・小売業・飲食店(人)	1053	1100	1273	1303	1270	1139
建築業(人)	583	704	773	712	689	544

表2. 産業別就業人口

【交通について】

大刀洗町は「宮野陣駅」(福岡県久留米市)から「甘木駅」(福岡県久留米市)までを結ぶ線に「大堰駅」と「本郷駅」(西日本鉄道甘木線)、および「西太刀洗駅」(第3セクター甘木鉄道甘木線)合わせて3つの駅を所有している(図1)。

1日の平均利用者数は、大堰駅393人、本郷駅393人(2015年は両駅で同数)、西太刀洗駅171人であり、いずれも駅員はいない(西太刀洗駅については町名と駅名の漢字が異なる)。西太刀洗駅の無人化は1986(昭和61年国鉄民営化)年、大堰駅・本郷駅の無人化は平成26(2014)年に実行され、西太刀洗駅は駅舎も撤去され小さな待合室のみがホームに建っている。3駅とも老朽化と損傷が激しく、暗く寂しい環境にある。

【路線バスについて】

久留米駅と大刀洗町を結ぶルートは15年前(2004年)に運行廃止となり、公共交通の手段としては残っていなかった。

教育については、大刀洗町には小学校4校と中学校1校があるが、高校・大学は町外に出る必要があり、公共交通機関の存在は軽視できない。

【通勤について】

大刀洗町から久留米、天神、博多へ通勤するビジネスマンがおり、自家用車や西鉄を利用している。大刀洗町外の市区町村に通学・通勤する人の数は



大堰駅



本郷駅



西太刀洗駅
図1. 大刀洗町にある3つの駅

1日平均約5,400人、他市区町村から大刀洗町へ通学通勤する数は2,700人あまりで、延べ人数は8,100人になり、数年間の数値ではなだらかな横

ばい傾向にある。駅利用者数は大堰駅、本郷駅、西太刀洗駅合わせて962人である（調査年統一のため2010年のデータを使用）。

	大堰駅(人)	本郷駅(人)	西太刀洗駅(人)
2010年	366	423	173
2011年	363	418	206
2012年	396	392	191
2013年	391	398	160
2014年	387	381	183

表3. 2010～2015年度 駅利用者数

大堰駅・本郷駅に停車する西鉄甘木線の1時間の本数は、早朝5時台が1本、朝8時台が3本、他6時台から23時台まで2本ずつあり、西太刀洗駅に停車する甘木鉄道甘木線は、通勤時間帯の朝7時と夜19時を除き、1時間に1本～3本の運行である（表4）。

西鉄甘木線大堰駅・本郷駅				第3セクター甘木鉄道甘木線・西太刀洗駅			
宮の陣(大牟田)方面		甘木(西鉄)方面		曇山方面		甘木方面	
時刻(台)	本数	時刻(台)	本数	時刻(台)	本数	時刻(台)	本数
5	1	5	1	5	1	5	0
6	3	6	3	6	4	6	2
7	4	7	3	7	3	7	4
8	2	8	3	8	3	8	3
9	2	9	2	9	2	9	2
10	2	10	2	10	2	10	2
11	2	11	2	11	1	11	2
12	2	12	2	12	2	12	2
13	2	13	2	13	2	13	1
14	2	14	2	14	1	14	2
15	2	15	2	15	2	15	2
16	2	16	2	16	3	16	2
17	2	17	2	17	3	17	3
18	2	18	2	18	4	18	3
19	2	19	2	19	3	19	4
20	2	20	2	20	2	20	2
21	2	21	2	21	1	21	2
22	3	22	2	22	2	22	2
23	2	23	2	23	1	23	1
						24	1

表4. 大堰駅・本郷駅停車西鉄甘木線および西太刀洗駅停車甘木鉄道甘木線時刻表

上記のことから、大刀洗町と町外を結ぶ交通網は、住民生活の利便性を勘案すると必ずしも十分だとは言えないのである。

2. 目的と計画遂行の経緯

大刀洗町は、住民生活の利便性向上およびその先にある子育て世代の移住・定住促進のため、大刀洗町管轄内の「駅」のイメージ刷新と路線バス「北野線」再開を実現化しする計画を練り始めた。その手段の一つとして、本学との共同事業に参画し、若者目線のイメージ戦略を取り入れることとした。

大刀洗町は、「子育て支援」や「医療・福祉」を通じ、近年は緩やかな横ばい傾向の人口増加を順調につづけている。大刀洗町の豊かな自然は子育てが安心してでき、高齢者を含む人の輪に守られたまちぐるみの人づくりを可能としている。

また九州産業大学芸術学部では、かねてより、5学科横断授業の中で、デザインを用いて地元企業等の活性化と振興に協力する活動を正規授業カリキュラムに取り入れ、地域に潜む「問題の発見からデザイン力による貢献までの学び」という実践的デザイン教育を行っている。そして芸術学部が展開している授業プログラム「クエスト演習C」では、大刀洗町の豊かな住環境整備とそこでの子育て支援にかかわる活動に参加し、大学生世代の感性を生かした明るく優しいまちづくりに貢献する活動を行うことが計画されていた。

他方、町の交通の一旦を担っている西鉄は、荒廃した駅が及ぼす弊害の対応に苦慮し、そのイメージ回復や刷新を図っており、さらに大刀洗町住民の強い要望をくみ取った新路線バスルート「北野線」の計画を練り、その宣伝方法を模索していた。

西鉄路線バスは、2004年以来JR久留米駅ー両築苑間に短縮されていたため、大刀洗町へのアクセスは皆無であったが、大刀洗町や住民の粘り強い働きかけにより、平成28年2月1日(月)から3月31日(木)の大刀洗町ー久留米間の試験運行を経て、5年ぶりに3.2km延伸することが決まった。開通は2019年10月1日であり、西鉄久留米駅ー今村天主堂(終点)と改められた。

これら3つの組織(西鉄×九州産業大学芸術学部×大刀洗町)が相互協力し、若者目線のイメー

ジ刷新を狙ったコラボレーションが構想された。

具体的には「大堰駅」のイメージを明るく変更に、高校生や中学生が安心して利用できる公共空間づくりを行うこと、また、復活を遂げた路線バスのイメージを刷新し、明るいまちづくりに貢献することであった。「北野線」再開は、地域住民の満足度向上につなげるだけでなく、大刀洗町らしいデザインを施し、町外への観光宣伝効果も図ることが期待された。

このような経緯から、西鉄(産)×九州産業大学(学)×大刀洗町(官)が協力し、「明るい大堰駅のイメージづくり」と「北野線新ルート：フルラッピング・バス」デザイン計画が練られ、地域の活性化に寄与し、実践的デザイン教育の素材として活用する三つ巴の企画が遂行されることとなった。

3. 駅・バスを中心としたデザイン支援方法論 【駅デザイン】

「明るい大堰駅のイメージづくり」プロジェクトは、2019年4月から11月末までの日程で計画された。駅のイメージ刷新には駅舎や待ち合いベンチ等の建家を中心に考案した幾何学デザインをカラフルな色彩でペイントする方法が採択された。

学生の公共交通機関利用旅費と壁画指導の講師料を大刀洗町が、駅のペイント用塗料を西鉄が、その他の消耗品・材料費・雑費・大型貸し切りバス代などを大学がそれぞれ負担し、すべてのマネージメントを筆者が行った。

計画は、学生とともに大刀洗町を数回にわたり訪問し、観光資源や特性を調査し、地元の小・中学生、高齢者等とワークショップを通じて交流を図ることから始めた。ワークショップでは「大堰駅」の問題点を洗い出し、「こうあってほしい」という姿を導きだした。関わった本学芸術学部学生は30人を超え、チームに分かれて分担作業を行った(図2、3)。

「大堰駅」のペイントの進捗状況から結果まで学生の活動はすべて動画で記録し2019年度末の展示で公開した。



図2. 大堰駅ペイント風景



図3. 大堰駅ペイント完成

【フルラッピング・バス】

「北野線新ルート：フルラッピング・バス」プロジェクトは、「駅デザイン」と同様、2019年4月から11月末までの日程で計画された。バスのフルラッピングにかかる費用を西鉄が、その他学生の公共交通機関利用旅費を大刀洗町が、その他の消耗品・材料費・雑費・大型貸し切りバス代などは「駅デザイン」同様、大学が負担し、すべてのマネージメントを筆者が行った。「フルラッピング・バス」は終点であるカトリック教会・今村天主堂をテーマとしたデザインが採用された。

また、「フルラッピング・バス」においても、観光資源や特性を調査し、地元の小・中学生、高齢者等とワークショップを通じて交流を図ることから始め、それぞれチームに分かれ様々な観点からデザインを提案した(図4、5)。「フルラッピング・バス」は活動を静止画で記録し2019年度末の展示で公開している。

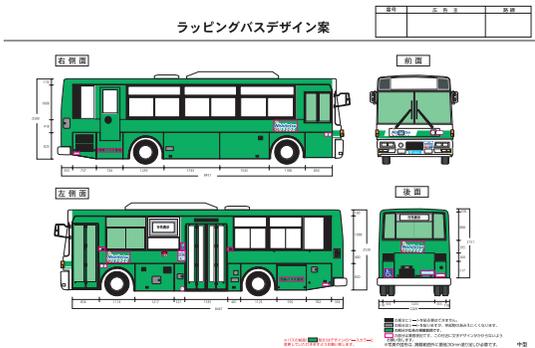


図4. 西鉄バスモデル



図5. 西鉄フルラッピング・バス

4. 実施結果とマスコミの反応

2019年10月1日、今村天主堂を終点とする西鉄「北野線新ルート」開通式は、助役、大刀洗町役場職員、西鉄職員、地元住民、近隣幼稚園園児、マスコミ等が参列して行われた。開通式の様子は、毎日新聞、西日本新聞、朝日新聞等に掲載、地元ケーブルテレビ局で放映された。また、11月29日には「大堰駅除幕式」が行われ、翌朝、西日本新聞、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞等に掲載された。

町民を巻き込んだ駅のペイント・プロジェクトやフルラッピング・バスやのような活動は、生活に変化が少ない田園の町に稀有な刺激的出来事であり、調査・ワークショップ・ペイント等の実施日には近隣の高齢者が見学に訪れたり、園児・中学生などが作業に加わったり、町民と学生との和やかな親交も見られた。また、産・学・官の3要素が揃った振興活動は毎週のように新聞各紙に取

り上げられ、住民たちに非日常の高揚した空気を提供した。このような、年齢・居住地域・立場や経験の違いを超越した町民と学生間の交流は、地域活性化活動の好例であり、明るいまちづくりのきっかけを作ったといえる。

5. まとめ

福岡の都市部と大刀洗町を結ぶ交通網の不備は、大刀洗町の生活の利便性を低下させ、高齢化に拍車をかけている。そこで町は、「自然の中での子育て支援」「パーク&ライド促進計画」、「移住・定住の誘致」など「スローライフ（スローリビング）」に力を入れ、豊かな自然とゆっくり流れる日常を町のモットーとし、プロモーション活動を行っている。同時に、1913（大正2）年に建立され、国指定の重要文化財であるカトリック教会・今村天主堂の存在を「走る広報」により町外に発信し、観光客の誘致を図ることや、1日約1000人の乗降客が安心して利用できる町の顔としての駅のリニューアルを行うことで町民の満足度向上に専心している。

九州産業大学芸術学部は大刀洗町から協力依頼を受け、役場・西鉄と協議を重ねながら「大堰駅」「フルラッピングバスデザイン」を実施し、それらをデザインの学びとして正課内で実施するプロジェクト型授業とした。作業はバスと駅で担当分けを行い、いずれも地域の特性と歴史を基本にデザインに取り入れた。バスについては展開図にデザインを描くことまで、また駅については駅舎・待ち合い・アプローチ・手すり・ステップ・駅表示の展開図作成・デザイン考案・ペイントまですべての行程を行い、その静止画像の記録整理や活動中の動画を制作した。

駅およびバスのプロジェクトは2月20日～3月1日まで福岡市の中心商業施設で展示・投影し、成果として広く公開した。

表1. 総務省統計局の資料に基づき筆者が作成

表2. 総務省「国勢調査1985（昭和60）年～2010（平成22）年」に基づき筆者が作成

表3. 2010年 総務省「国勢調査」より九経調作成に基づき筆者が作成

表4. 大堰駅・本郷駅停車西鉄甘木線および西太刀洗駅停車甘木鉄道甘木線時刻表を参考に筆者が作成

図1～3. 筆者撮影

図4. 西鉄より提供

図5. 筆者撮影